

腎臓病の怖さ

腎臓は背中側の腰の少し上くらいに左右一対あり、様々な役割を担っています。

なかでも一番重要な役割は、血管を通して全身から集まった老廃物を尿として排泄し、たんぱく質など必要なものを再び吸収するという「フィルター」の働きです。

また、尿の量や濃さを調節し、水分や塩分、ミネラルのバランスを保つことで、血圧を調節したり、骨を強くしたりする働きがあります。

さらには、ホルモンを出して骨髄で赤血球が造られるように促すといった働きもあります。

一方、現在国内に1,300万人を超える患者がいるとされ、新たな国民病とも言われている慢性腎臓病については、意外にご存じない方が多いのではないのでしょうか。

腎臓が悪くなる原因の第一は糖尿病ですが、近年は高血圧症や脂質異常症などに起因するケースも増えています。腎臓の機能は加齢によって低下しますので、生活習慣病の蔓延や高齢化の進行が腎臓病の患者数の増加に拍車をかけ、末期腎不全まで進行した患者は、30万人

を超えるとも言われています。

慢性腎臓病が一番怖いのは、初期の段階では症状が出にくいために、医療機関を受診しないまま放置した挙句、手遅れになってしまうことです。2つあるから大丈夫だなどと楽観するのは大きな誤解で、症状が出る頃には左右2つとも悪化が進み、人工透析や腎臓移植といった腎代替療法が必要な末期腎不全となってしまうケースがほとんどです。

近頃は、学校や職場での健康診断や市町村が実施する住民検診などで腎機能を調べる機会も徐々に増えてはいますが、まだ十分とは言えません。そのため、早期発見・早期治療につなげていくためには、自ら進んで検診や人間ドックなどを利用し、定期的に尿や血液の検査を受けることで、尿たんぱくや腎機能障害などの有無を調べることが大切です。

その結果、異常が確認された場合には、一度腎臓専門医を受診し、相談することをお勧めします。